

2023年8月2日(水)

街道観光「実践オンラインセミナー2023」—第1回

# 人口増が期待できない時の地域づくり

—地域の成り立ちに樹った文化のネタを見出す—

帝京大学 経済学部観光経営学科 教授 大下 茂  
(地域活性化伝道師(内閣府))

# はじめにープロフィールと2023セミナーの趣旨

## プロフィール

- ✓ 工学系出身・・・技術士(建設部門/都市及び地方計画)
- ✓ “これっ“といった著名な地域資源を有していない地域の地域づくりの段階的・実践的な取組みの要諦に興味・関心  
⇒博士論文『集客型地域づくり手法の体系化に関する研究(東京工業大学)』
- ✓ 担当科目:「観光まちづくり論」「アクティブラーニングによる演習」等
- ✓ 東京都観光事業審議会会長(第22次～24次)  
東京都観光、北区、大田区・墨田区等の観光地域づくり事業に参画 等



学生提案による観光事業の展開例



バスタ新宿(昼景ver)



バスタ新宿(夜景ver)

# はじめにープロフィールと2023セミナーの趣旨

## 実践オンラインセミナー2023の趣旨

2023年度の実践セミナーでは、取組を持続可能な姿とするための「**多様な主体の参画**」をテーマに、地域が気持ちを合わせていく手法について、3回のセミナーを通じて考え方をお伝えするとともに、地域の力を合わせて実際の消費につなげる取組を実践的に学べるよう努めたいと思います。

第1回	8月2日(水)	人口増が期待できない時の地域づくり ～地域の成り立ちに樹った文化のネタを見出す～
第2回	8月10日(木)	仲間をつくろう ～志の募り方とむすび方～
第3回	8月22日(火)	行動計画をもとう・つくろう ～シナリオの描き方と動かし方～
第4回	8月24日(木)	明日からできる! 地域の多様な主体が連携し、事業成功に導く「とっておき」の法則

# はじめに一プロフィールと2023セミナーの趣旨

多様な主体の参画にあたって……

□観光と集客、そして交流

※交流人口、観光客、顧客、来訪者、関係人口等

□多様な主体……住み手、働き手、学び手

+ファン・応援団+サポーター

□常識とは……様々な視点から地域を見直してみよう



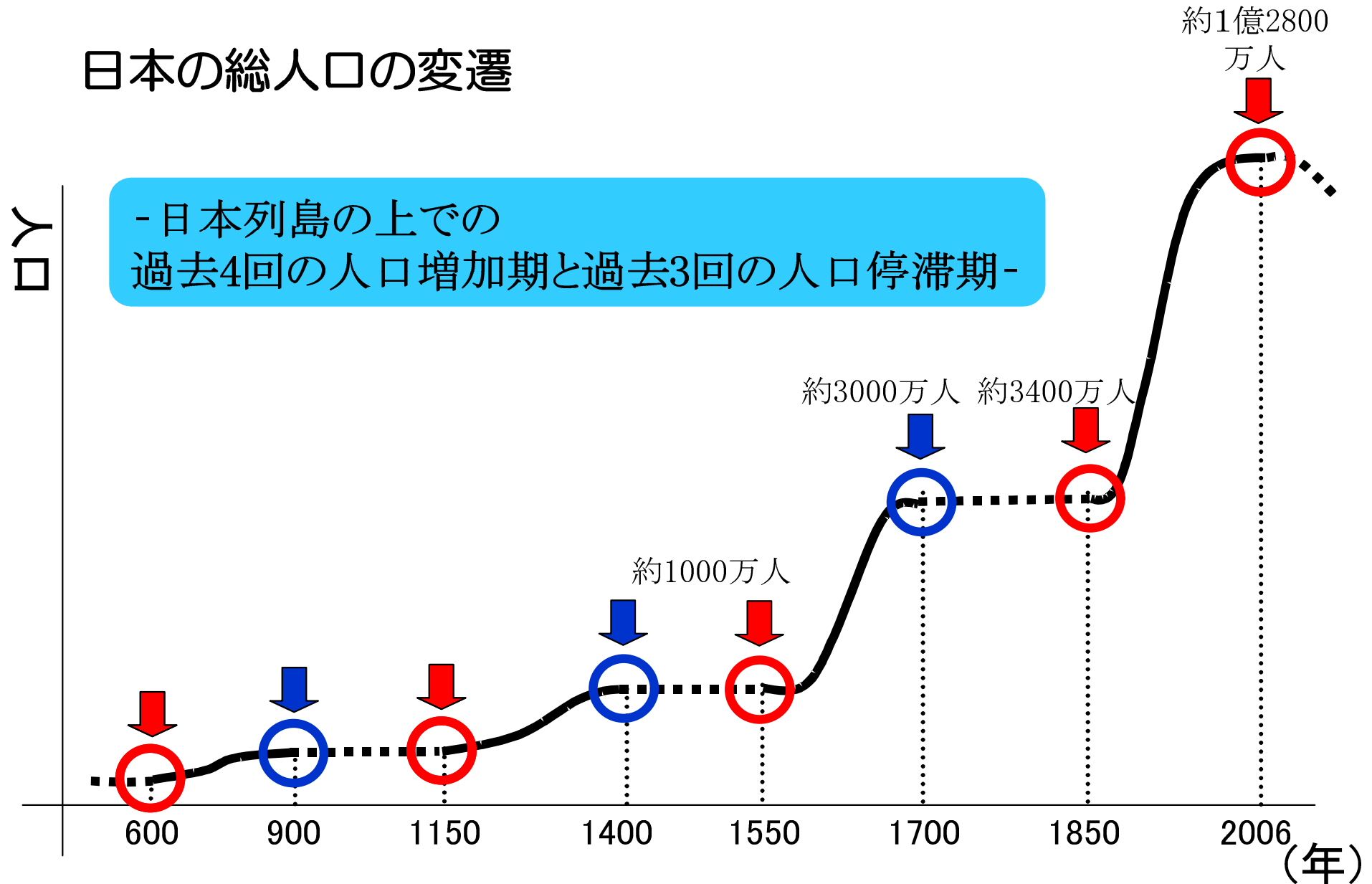
“脱・常識”のススメ



人口が減少に向かうと地域の活力は確実に低下するのだろうか？

# 4度目の人口停滞期・減少期を迎えて…

## 日本の総人口の変遷



# 4度目の人口停滞期・減少期を迎えて…

## ◆人口増加期の特徴・人口停滞期の特徴の比較

人口増加期	人口停滞期
①飛鳥～平安前期（600～900） ②平安末～南北朝期（1150～1400） ③室町末～江戸前期（1550～1700） ④幕末～21世紀初（1850～2006）	①平安中後期（900～1150） ②室町期（1400～1550） ③江戸中後期（1700～1850） ④21世紀初（2006～）
外向的（開国志向） 物財的フロンティアの追求	内向的（鎖国志向） 精神・情緒的フロンティアの追求
経済成長 開放経済（貿易立国）	経済停滞 鎖国経済（自給立国）
文化の吸収・胎動 舶来文化志向	文化の成熟 和風文化志向
中央集権的	地方分権的
抗争・戦乱（軍拡）	平穏・太平（軍縮）
男性が元気な時代	女性が元気な時代
◆都市建設の時代 （まちをつくる時代） ①首都、国府 ②港町、門前町 ③城下町、宿場町 ④軍都、工都、研究学園都市	◆都市文化の時代 （まちをつかう時代） ～江戸中後期に顕著 ～現代もその兆候あり

# 4度目の人口停滞期・減少期を迎えて…

都市づかいと文化成熟が人口停滞期のキーワード

- ①「地域をつくる時代(人口増加期)」から  
「地域をつかう時代(人口停滞期)」への方向転換
- ②文化成熟の時期  
～「日本文化・和風」の創造の時代  
＝後世が「これぞ日本的」と呼ぶものの創造



江戸中期以降の人口停滞期の社会の状況から学ぶ



# 江戸中後期の人口停滞期の智恵に学ぶ

## ものづくり(特産品開発)による地域活力の創造

伝統工芸品130品目を対象  
 ▼  
 原材料 × 加工技術

加工技術

原材料

[成立パターン別の特産品の構成]

	①自生	②増産	③移植	④輸入
①既存	第1パターン 技術:自前 64 原材料:自前 49.2%		第3パターン 技術:自前 9 原材料:移入 6.9%	
②発生				
③流入	第2パターン 技術:他力 50 原材料:自前 38.5%		第4パターン 技術:他力 7 原材料:移入 5.4%	
④招致				
⑤留学				

出典:中田・渡邊・十代田(1993)『江戸時代の特産品製造業の立地と育成方法に関する基礎的研究』

[技術・原材料とも外的導入パターンの事例(n=7)]

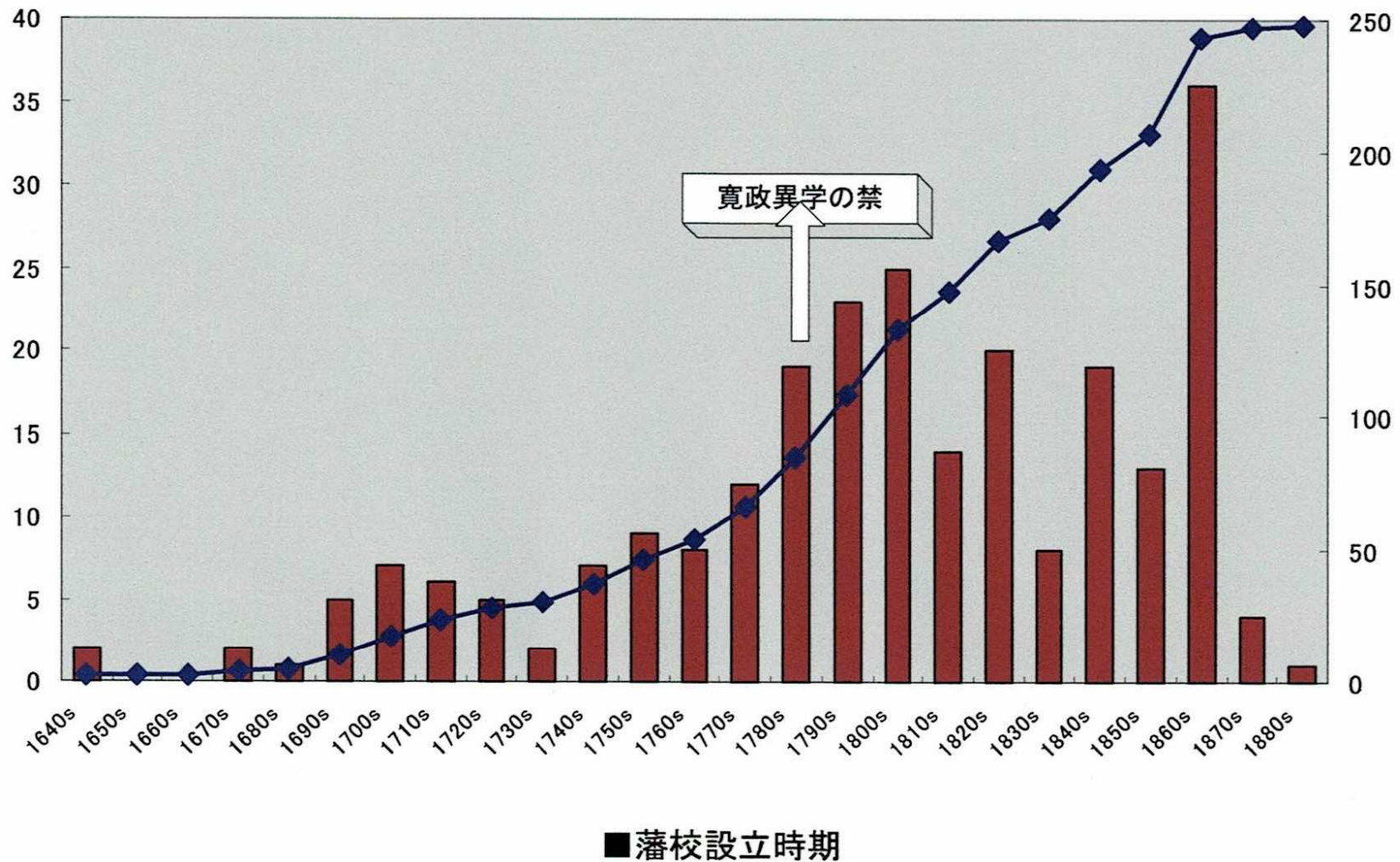
	技術			原材料		
	種類	誰	導入元	種類	誰	導入元
①知多木綿	紡織	御師	松前木綿	綿花	藩	三河
②大洲半紙	製紙	越前の人	越前奉書	楮	藩	土佐
③伊勢型紙	特殊	公家	京文化	紙	藩	美濃
④佐土原紙	製紙	藩	本庄紙	楮	藩	本庄
⑤金沢金箔	特殊	藩	京文化	金	藩	佐渡
⑥浜蚊帳	紡織	商人	八幡蚊帳	麻糸	商人	周辺
⑦大島紬	紡織	—	久米島紬	養蚕	—	久米島

出典:中田・渡邊・十代田(1993)『江戸時代の特産品製造業の立地と育成方法に関する基礎的研究』



# 江戸中後期の人口停滞期の智恵に学ぶ

## 人づくりによる地域活力の維持



出典:津々見崇(2000)『江戸後期における諸藩の地域教育システムとその役割に関する研究』

# 江戸中後期の人口停滞期の智恵に学ぶ

## 集客による地域活力の向上—旅のブーム化

### ○ 江戸中期における旅の成立条件

…旅のブーム化(文化・文政年間=1804~30年頃)

- 参勤交代の制度化 ⇒ 街道や宿場などの基盤の充実
- 農業技術の進歩による農業生産性の向上 ⇒ 農民の地位向上
- 農村における貨幣経済の浸透
- 代理講の発達---伊勢講、金毘羅講、熊野講、三山講、三峰講、大山講、富士講、戸隠講、秋葉講、立山講 等

# 人口停滞期の地域活力維持のための智恵

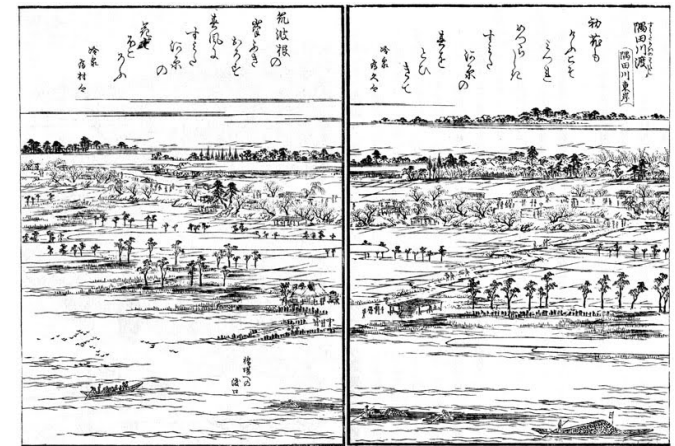
## 集客による地域活力の向上一旅のブーム化

### ○吉宗による都市近郊の行楽地づくり

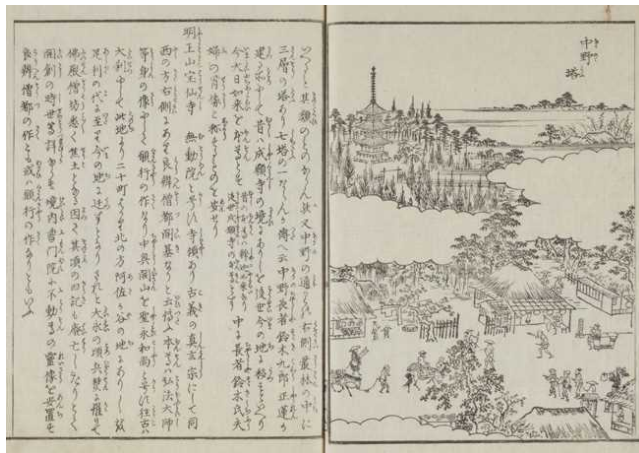
- 質素儉約と江戸庶民の楽しみの提供
- 遊覧地の造成・・・日帰り距離圏(城から8km)、東西南北に拠点整備



飛鳥山(桜)



墨堤(桜)



中野塔(梅)



御殿山香花(桜)



# 江戸中後期の人口停滞期の智恵に学ぶ

## 集客による地域活力の向上一八景

### 【典型八景】 近江八景

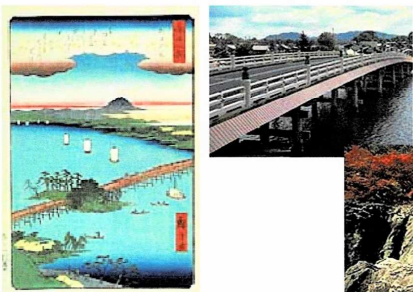


近江八景は一説によれば、明応9年（1500年）戦国時代の叢中、乱を避けて来た、時の関白近衛政家が中国最大の湖である洞庭湖（どうていこ）の「瀟湘八景（しょうしょうはっけい）」にならって選び出したものだといわれている。

現在も、歌川広重の浮世絵版画「近江八景」が、その美観を伝えているが、風景そのものは、今も名残りを残すものから著しい変貌をとけているものまで様々である。

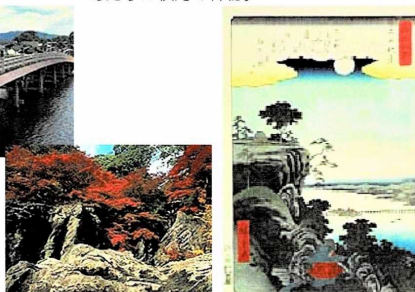
### 1 瀬田の夕照（せたのせきしょう）

照り輝く瀬田の透き水の豊かな流れ。唐橋に映えて夕照のこの世ならぬ風情。



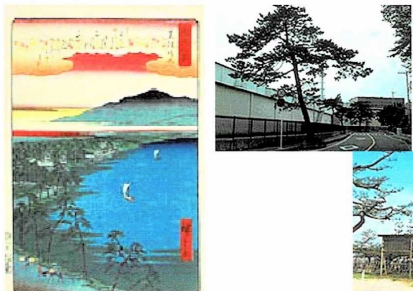
### 2 石山の秋月（いしやまのしゅうげつ）

一条の月光を友として、源氏物語の想を練った紫式部。瀬田の清流から霊山石山寺あたりに秋月の神秘。



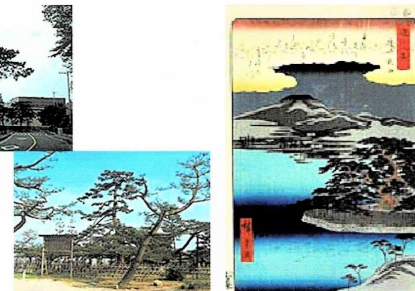
### 3 粟津の晴嵐（あわづのせいらん）

散るか散らぬか、湖上にたなびくうす霞。松並木の湖畔の往還にそっともやの風趣が



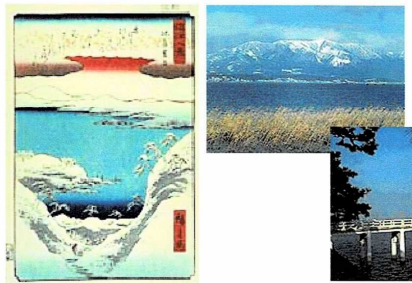
### 4 唐崎の夜雨（からさきのやう）

糸をひく春雨か、夏の夕べの驟雨か。湖上にかかる唐崎の松がおぼろに煙ぶる。



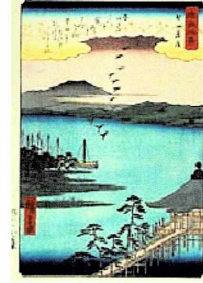
### 5 比良の暮雪（ひらのぼせつ）— 志賀町

晩秋から雄大な比良の峰々を彩る白銀のヴェール。あかね色の夕陽に染めあげられた南画調の山稜。



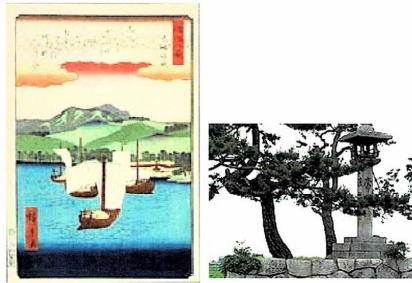
### 6 堅田の落雁（かたのらくがん）

冴え冴えとした冬の湖上の、優雅な満月寺（浮御堂）の姿。列をなして飛ぶ雁の群れとの美しいコントラスト。



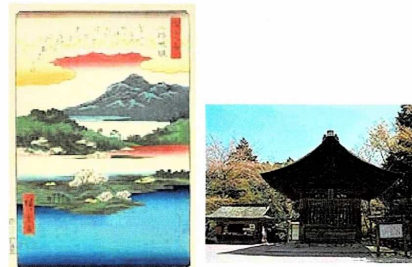
### 7 矢橋の揚帆（やばせのきはん）— 草津市

湖上に散華する白い帆の渡船の群れ。風光際立つ矢橋に、躍動した人々の一大叙情詩。



### 8 三井の晩鐘（みいのはんしょう）

街なみを、そして湖上をわたる名鐘のひびき。哀調を帯びた音色は日本三名鐘の余韻。



琵琶湖をいだけ近江は、古来風光明媚な地として知られ、室町時代末期には中国の瀟湘八景になぞらえ、近江八景が選ばれた。これら八景は、日本の代表的な名所絵として屏風絵や陶磁器、蒔絵の絵柄などにさかんに取り上げられ、江戸後期になると、浮世絵でも多く描かれるようになった。そして、歌川広重の作品により、庶民のあいだでも一気にメジャーな名所として定着していった。

絵図/<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/frameset/index02.html>  
現況/<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/frameset/index02.html>

# 江戸中後期の人口停滞期の智恵に学ぶ

## 八景の形式と時代の変遷

類型	特徴	江戸初期	江戸中期	江戸後期	明治	大正	昭和	不明	合計
典型	8題と地名による典型的な八景。 江戸後期に一般化して定着している。	1	5	29	7	3	0	7	52
折衷型	典型八景のうちのいくつかを別のものに置き換えている折衷型の八景。	1	6	13	10	0	1	4	36
独自型	8題のすべて異なる八景タイプ。 「八勝」「八境」と称されるものも目立つ。	2	2	6	6	0	1	1	18
名勝型	名勝地、観光対象等を8つ集めて「八景」と称したものであり、季節や時間等の風景鑑賞との関係もない。 新日本八景、日本新八景などもこのタイプの八景に含まれる。	0	0	0	0	1	4	2	7
合計		4	13	48	23	4	6	14	113

出典：齊藤和弘(1990)『「八景」の観光的意味に関する研究』

# 江戸中後期の人口停滞期の智恵に学ぶ

## 観光キャッチコピーの名作としての「八景」

景題	秋月	落雁	帰帆	晩鐘	夜雨	青嵐	暮雪	夕照
季節	秋	秋	—	—	—	秋・春	冬	—
時刻	宵・夜	夕	夕	夕・夜	夜	昼	夕	夕
天候	晴	—	—	—	雨	嵐	雪	晴

資料:新体系土木工学59—土木景観計画(p121)を参照し作成した

### ◆八景の観光的意味

- ①観光客の誘致・宣伝
- ②通年化あるいはオフシーズン対策
- ③滞留時間の増大あるいは宿泊の促進……朝、昼、夜の情景
- ④観光客流動域の空間的拡大……回巡型
- ⑤リピーターの誘発……一度にすべてを見るができない
- ⑥観光的魅力の強化
- ⑦観光を通じた文化開発(図絵、屏風絵、陶磁器、蒔絵等の土産物開発)



# 江戸中後期の人口停滞期の智恵に学ぶ

都市づかいを支える関連サービスの台頭・楽しみの型のアピール

## ○ガーデニングブーム

(庭園維持管理からの展開・一種の起業ビジネス)

## ○地域情報誌の発刊ブーム(都市づかいのための情報支援)





# これからの地域活力向上のヒント

人口増加が期待できない時代は、地域・都市を改良しながら「つかう時代」です。地域づくりに投じてきた財は、文化の創造に投じられてくることが想定されます。きっと、新しい、文化・サービスが生まれ、暮らしに楽しみが加わってくるものと思います。



**過去からの延長線上の現在があり、将来もまた、現在の延長線上にある**

- ①地域の記憶を辿ってみよう
- ②地域の作法を確認してみよう
- ③文化の原点を思い起こしてみよう

# 江戸街道プロジェクトをきっかけに・・・

## 各街道・宿での地域の履歴書をつくってみよう

### ◆街道・・・「街(まち)」と「道(みち)」

### ◆地域の履歴書づくりのヒント

- 地域の“もっとも光輝いていた時期”にフォーカスする
- 地名の由来を問う
- 旧町名を見直す
- かつての絵図に描かれている情報に着目してみる
- 祭りの原点に学ぶ
- 屋号を調べてみる
- 膝栗毛などで紹介されている“食”や“エピソード”を辿る
- 地域の名産品・特産品の原点を訪ねる／謂れを問う
- 民話やご当地ソング(音頭・甚句)の内容を再確認する
- 地域輩出の著名人の活躍を見直す
- 災害・気象に関する言い伝えを紐解く など

ご静聴、ありがとうございました。

次回は、**8月10日(木)の15:30~**です。

テーマは『**仲間をつくろうー志の募り方とむすび方**』です。

[shig-osm@blue.ocn.ne.jp](mailto:shig-osm@blue.ocn.ne.jp)

[shig-osm@main.teikyo-u.ac.jp](mailto:shig-osm@main.teikyo-u.ac.jp)